

Pain de Crew

SAGAMIHARA

アラヒマガス
のパン屋さん

パン・ド・ウル
ー
ものがたり



村の外れのパン屋さんのお話です

ご主人は
アリカさんという名前で
そのパンを食べた人が
にっこり笑ってくれるような
おいしいパンを作ろうと
毎日朝早くから
一生けんめいパンを作る
パン屋さんでした



ある日

アリカさんのお店に旅人が来て
パンをおいしそうに食べながら

アリカさんや村の人たちに

ふしぎなパンの木の森の話をしました

それはこんなお話でした



そここがどこか

そこへはどういくのか

だれに聞いてもわからないけど

アラヒマガスという森があります

その森の奥には

パンのなる木があつて

いろいろなパンが

木の実のようになるのです

パンが育つて大きくなると

木の枝からからおりてきて

こんどはその木のお世話をします



そして時には

森に住む動物たちと

笑顔でおしゃべりをしたり

いっしょに森のおそうじをしたりして

なかよく暮らしているのです

どうしてその木があるのか

なぜその木にパンがなるのか

だれにもわかりません

でもそんなパンの木のある

アラヒマガスという

しあわせな森があるのです



その話を聞いてから

アリカさんは

毎晩寝る時に思うのです

「ああ

アラヒマガスの森を探してみたい

そんなパンの木を見てみたい

どうして木にパンがなるのか

どうやって

動物たちとなかよくできるのか

聞いてみたい



そうすれば

もつともつと

おいしいパンが作れるかもしれない

もつともつと

みんなを笑顔にして

あげられるかもしれない」

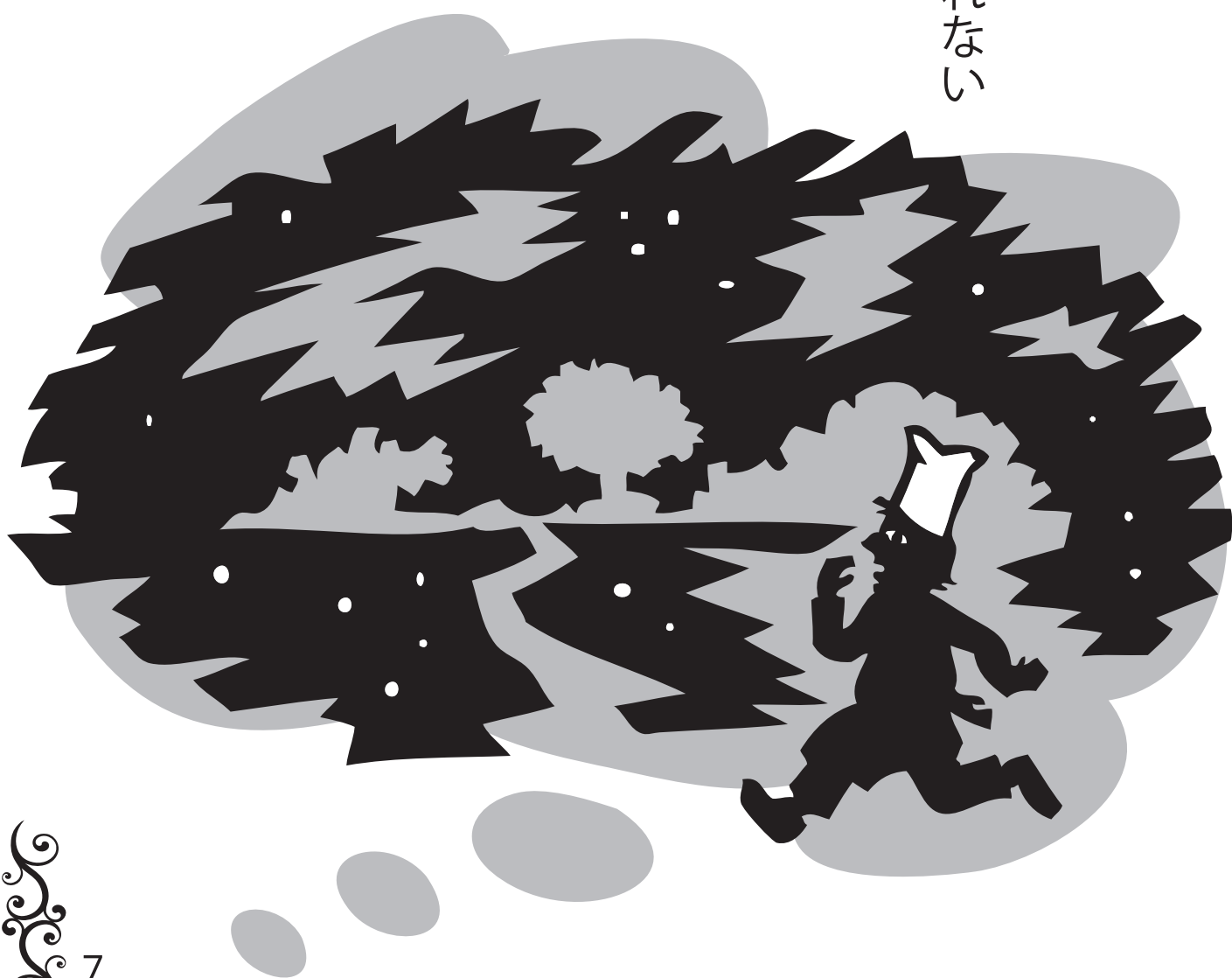
そしてアリカさんは

いつしか眠りに入り

パンの木のある

アラヒマガスの森を

さがしている夢を見るのです



そんなある日

お店にパンを買いに来た

お母さんにつれられた

小さな子供がアリカさんに言いました

「おじさんのお店はふしぎだね

だってどこからも

パンを持ってこないのに

いつも朝になるとお店いっぱい

パンが並んでいるんだもの

まるで秋になるとくだものがなる

うちのお庭の木みたい」



「それとパンってふしぎだよね
だってパンはいろいろな形があるし
見てるだけでも楽しくなるよね

うちのおかあさんも

このお店に入るといつも

ニコニコ顔になるんだよ」

「おじさんのお店は

いろいろなパンがなる木のようだね」



それを聞いて

アリカさんはびっくりして言いました

「ありがとう ありがとう

とっってもうれしいよ

おじさんも気がつかなかったけど

このお店はパンのなる木だったんだよね」

「おいしいパンを

心をこめて作れば

みんなが笑顔になれるんだよね」



アリカさんは心の中で
「そっこだ私は今までも
人々を幸せにする
アラヒマガスの森にいたんだ
と思いました

きっと

今夜は夢の中でパンと

いっしょにおどっている

アリカさんがいることでしょう

